2007 年 10 月 14 日第１１回中日理論言語学研究会

景頗語(Kachin)の主題マーカー
——日本語の「は」との対照研究の立場から

張 麟声

１　はじめに

本発表で検討するカチン語の主題マーカーとは，次の例（１）に用いられている go¹のことである。

（１）Ngai　go¹　ka¹phu¹　rai² nga¹ n¹ngai。　(戴庆厦(2001)，p100)
　　私　は　兄　だ
　（私は兄だ。）

この go¹については，刘璐(1984)では「モダリティ助詞)」，戴庆厦，徐悉艰(1992)では「主語助詞」と呼ばれ，戴庆厦(2001)に至って，「话题助词(主題マーカー)」と呼ばれるようになる。刘璐(1984)と戴庆厦，徐悉艰(1992)の命名は当時の学界レベルの制約を受けたものであり，go¹の本質をついたものではない。なぜなら戴庆厦(2001)において指摘されているように，go¹は「语气(モダリティ)」も「主语(主語)」も表さず，「话题(主題)」しか表さないからである。一方，戴庆厦(2001)の命名は，日本語の「主題マーカー」という術語にも通じており，賛同に値する。ただし，本発表では「主題マーカー」という術語を採用する。

命名にとどまらず，go¹そのものの記述も，戴庆厦(2001)のほうが，前二者の有益な部分を生かした上で，たいへん緻密に行っている。ただし，主題マーカーを含む主題研究の歴史が 100 年以上に及ぶ日本語研究の立場から見れば，その描き出された言語事実に関するまとめ方や今後の課題などについては，まだ検討すべきところがあるかと思われる。

本発表では，戴庆厦，徐悉艰(1992)に付録されている 10 篇の伝説に見られるカチン語の主題マーカーの分布について検討する。伝説の言語は語り継がれながら，少しずつその時代その時代の口語の影響を受けて変化していくらしいが，それでも，それなりに古い用法を残すことがよく見られる。特に長い間文字を持たなかったカチン語においては，伝説が現在見られる唯一の古いところを残す文体だと思われる。発表者は現代カチン語のことについて調査を行っている最中だが，敢えてまず伝説に見られる go¹について考察を加えるのは，伝説を通して古いところからまず見ていきたいと思うからである。

本発表の章節立てとしては，まず第２節において，戴庆厦(2001)の記述を簡潔にまとめた上で，第３節において伝説に見られる go¹の用法を具体的に考察する。考察に当たっては，戴庆厦(2001)の記述において触れられている用法については確認するにとどめ，その記述に触れられていない用法については書き留めておく。そして，終わりの第４節においては，現時点で分かった go¹のことを簡単にまとめることにする。

２　戴庆厦(2001)における go¹の記述

戴庆厦(2001)における go¹の記述については，すでに張(2007)において日本語の主題マ

ーカーと対照してまとめてあるので，張(2007)を要約する形で述べていくことにする。戴庆厦(2001)において，go¹は3種類の機能を持つと記述されていると思う。以下２－１，２－２，２－３においてそれぞれ検討する。

２－１ 主題を表す

日本語の研究者は主題マーカーの主な機能の一つを「主題を表す」とみなし，戴庆厦(2001)においても，go¹について同じことが述べられている。主題を表すというのは，主題マーカーに共通する性格だと考えられ,以下,日本語と対照する形で例を３つ示しておく。これらの例において，go¹は日本語の「は」と完全に対応している。

（２） Ngai　go¹　ka¹phu¹　rai² nga¹ n¹ngai。
私　は　兄　だ
(私は兄だ。)　(再掲)

（３） Ndai　lam hpe②　go¹　ga¹tai mung¹　chye sai。　(p100)
この　事　を　は　誰　も　知っている
(このことは誰も知っている。)

（４） Dai¹ni²　go¹　ngai　n　sa　ni②ai。　(p100)
今日　は　私　ない　行く
(今日は私，行かない。)

もっとも，主題マーカーの接続の仕方において，カチン語と日本語の間に幾分違いは見られる。例えば例(3)において，カチン語では，対格が主題化されても，そのマーカーのhpe②がそのまま残り，その後にgo¹がつく形になるが，日本語では,「を」が消えて，名詞句の後に直接「は」がつく。しかし，このレベルでの違いはあっても，主題を表すという主題マーカーの共通性を否定するものではない。第一，古代日本語には「をば」という形があり，カチン語の「hpe② go¹」に相当する。つまり，古代日本語では，カチン語と似ていて，主題化されても，対格のマーカーが消えず,「は」がその後につくことがある。

２－２　対比を表す

日本語の「は」のもう一つの機能は「対比」を表す。戴庆厦(2001)においても，go¹について基本的に同じことが述べられている。おそらく対比を表すことが主題マーカーの２つ目の共通した機能だと言えよう。次の例(5)(6)(7)に見られる対応関係がこのことを裏付けてくれる。

（５） Ngai　go¹　gam　re³，Shi　go¹　no　re³。　(p101)
私　は　長男　で　彼　は　次男　だ
(私は長男で，彼は次男だ。)

なお，次の例（６）～（12）は，戴庆厦(2001)においては,「対比」として記述されていないが，張(2007)において，日本語の「は」と対照しながら検討したように，やはり一種の対比を表すものだと考えられる。

（６） Ka²hkum³　go¹　ka²hkum³，　ngyin　go¹　ngyin。　(p101)
かぼちゃ　は　かぼちゃ　胡瓜　は　胡瓜
(かぼちゃはかぼちゃ，胡瓜は胡瓜。)

（７） Sha¹ni¹ shat¹ the① Sha¹na① shat¹ go① (p101)
昼食 と 夕食 は?
(昼ご飯と晩ご飯は？)

（８） Nang go¹ ti②nang a① bung¹ li¹ go¹ n² gạ¹lo ai。 (p102)
君 は 自分 の 仕事 は ない やる
(君は自分の仕事はやらない。)

（９） Dai¹ning ning go¹ mam grai¹ lu¹ na sai。 (p101)
今年 は 粟 非常に ある
(今年は粟は豊作になるようだ。)

(10) Yong¹ yong¹ go¹ n² dang³ ma¹ri¹ n¹ngai。 (p101)
全部 は ない できる 買う
(全部は買えない。)

すこし説明をすると，例（６）では，「かぼちゃ」と「胡瓜」，例（７）では，話題の前提になっている「朝食」と「昼食と夕食」，例（８）では，暗黙の了解として存在する「他人の仕事」と「自分の仕事」，例（９）では，暗黙の了解として存在する「今までの年」と「今年」，例(10)では，「全部」と含意として存在する「一部」とが対比されているのである。

２－３　複文における条件従属文を主題として取り立てる

上では，日本語の主題マーカー研究の成果を踏まえて，主題と対比を表すカチン語の go¹ の２種類の用法を見てきたが，カチン語の go¹ には，実はもう１種類の機能がある。戴庆厦(2001)において，「条件复句的前一分句(表条件的)也可以做话题，并在分句末尾加上话题助词 go¹。条件可以是假设的，也可以是已成事实的。（条件型複文の前節(条件を表す節)も節の終わりに go¹ を従えて，主題になることがある。条件は仮定的なものでもよく，確定的なものでもよい。)」(p101)と述べられているところである。例えば，次の２例である。

(11) Nang la²hkuṃ³ hta① n² kam dung jang¹ go¹
あなた 腰掛け 上 ない たい 座る なら ば
shi hpe② sha¹ dung² kau² u① 。 (p101)
彼 に 座らよう
(あなたが座らなければ彼に座らせよう。)

(12) Shi lu¹ sa² jang¹ go¹
彼 手に入れた なら ば
He have if
ngaị hpe② bai² n¹htang² ya ni① ga①。 (p101)
私 に それから 返す くれる
(彼が手に入れたので，その後私に返した。)

このような機能は日本語の「は」には見られない。しかし，この場合の go¹ がは日本語の「ば」に対応し，そして，その「ば」は「は」に起源を持つといわれているものである。となると，上で述べた，カチン語の「hpe② go¹」に「をば」が対応するということと同様に，この場合も日本語のある時期の姿が現代カチン語の姿と重なっていることになる。

また，次の 2 例は戴庆厦(2001)においては，従属節を主題として取り立てる例として述べられてはいないが，どちらかというと，やはりただの文成分ではなくて，従属節のようなものである。そして，このケースに対応する日本語は，主題マーカーの「は」ではなく，仮定などの条件節につく「ば」でもなく，話題を提供する従属節につく「と言えば」なのである。「と言えば」は「という」と「ば」からなっているものである。つまり，日本語はカチン語より形式の分化が一段と進んだと言えよう。

(13) Hpai hpai <u>go¹</u> shi lu¹ hpai ai。 (p102)
担ぐ といえば 彼 できる 担ぐ
(担ぐといえば彼は担げる)

(14) Shi hpe② ya ya <u>go¹</u> ṉ ya na ni②ai。 (p102)
彼 に あげる といえば ない あげよう
(彼にあげるといえばもうあげない。)

３　伝説に見られるさまざまな用法の go¹

この節において,10 篇の伝説に見られた go¹ の用法について記述する。まず戴庆厦(2001)において指摘されたものに触れ，それから，新しく「発見した」数種類について述べる。

３－１　主題を表す

10 篇の伝説における go¹ の総使用例 148 例のうち，104 は主題を表すもので，約 70%を占める。主題を表すというのは，おそらくどの言語においても主題マーカーの一番基本的な機能であろう。しかし，カチン語の主題マーカーは日本語の主題マーカーが使われないところにも使われている。いわゆる聞き手あるいは読み手にとって名詞句が新情報の場合である。

新情報の名詞句とは，物語において登場人物が最初に登場するときの指示語句のことであり，この場合は，日本語では，次の例における一重下線部のように，その後に主題マーカーの「は」ではなく，主格マーカーの「が」が使われている。そして，実際に「は」が使われ始めるのは，同名詞句の指示対象が２回目に現れるときで，二重下線部のところがそうである。

(15) 昔々，あるところにおじいさんとおばあさん<u>が</u>いました。ある日，おじいさん<u>は</u>山に柴刈りに行き，おばあさん<u>は</u>川に洗濯に行きました。

しかし，カチン語の場合はこのような規則がなく，登場人物は最初から主題マーカーの go¹を従えている。以下，それぞれ登場人物が一人と二人の場合の例を一つずつあげる。

(16) La¹ni² mi hta, chya²hkan³ ga¹nu¹ la²ngai³ mi <u>go¹</u>
日 一 に 蟹 お母さん 一 一 TM
ga¹sha¹ ni hpe sha¹ga ja¹hpong¹ ton¹ n¹htom², ……。
子供 たち を 呼ぶ 集めておく から,
(ある日，一匹のお母さん蟹が子供たちを呼び集めてから，……)

(17) Moi¹ shong² de Sap¹hkung² Hka hte N¹mau¹ Hka <u>go¹</u>
昔々 努 江 と 瑞麗 江 TM
nong e¹ shan² sha¹da da ga¹rum shing¹tau² hkat² n¹na²

常　に　二人　　互いに　　助ける　　あう　　ので

ma¹na¹ ma¹ka¹　yak¹ ai　sha¹ra¹　a¹bro　ma¹long

たいへん　通りにくい　ところ　力いっぱい流しとおす

Lui　yu　hkrat¹　wa¹　maai.

流れる　いく　下へ　行く　(三人称単数)

(昔々，努江と瑞麗江はいつもお互いに助け合っているので，大変通りにくい河床をも力いっぱい流しとおして下へ下へと流れていった。)

もっとも，そのような新情報名詞句を表すのに，go¹をかならず使わなければならないというわけではない。例えば，次の例(４)における新情報の名詞句の ma¹sha¹ la hkan² wa³(親子二人)は，裸のままで使われ，後ろに何も従えていない。

(18)　La¹hpot¹　mi　hta,　ma¹sha¹　la hkan² wa³　mam　gun

朝　一　に　人　親子二人　稲　担ぐ

ma¹nap¹ khon¹　sa wa¹　ma① ai.

朝早く　行く　三人称完了

(ある朝，親子二人が早く起きて稲を担ぎに行った。)

しかし，こういう go¹をつけたりつけなかったりする現象は，日本語の話し言葉において，主題を表すのに「は」を使ったり使わなかったりすることと同じであり，新旧情報を区別する性格のものではない。言い換えれば，カチン語の go¹は，日本語の「は」と違い，その名詞句が主題でありさえすれば，旧情報のものも新情報のものも表すのである。

３－２　対比を表す

総使用例 148 例のうち，主題を表す 104 例に次いで，2 番目に多いのは，対比を表す 22 例で，約 15%を占める。言い換えれば，主題と対比の 2 種類で go¹の総使用例の約 85%を占めるということになる。

対比されている対象の性格からすれば，一番多いのは，時間を表す名詞句だが，場所関係のものや，人間の「口先での言い方」と「実際の行動」といったものも見られる。

また，対比される項目の現れ方から見れば，両方とも明示されているケースもあれば，片方だけ明示されていて，もう片方は前後の文脈に含意されているというケースもある。以下，それぞれ一例挙げておく。

(19)　(Buk¹ga¹lui¹ jan　go¹)　ga¹shung　jang　go¹　n¹ba²　da①na　nga,

梟　TM　寒い　時　TM　布団　織ろう　と思い

jan　lum　jang　go¹　n¹ba²　da①na　zon¹　mung¹　n²san²

太陽　暖かい　時　TM　布団　織り　そうもない。

((梟は)，寒いときは布団を織ろうと思うが，一旦，太陽が出て暖かくなったら，もう布団織りをしようともしなかった。)

(20)　“Bai¹bai¹,　dai¹ni²　go¹　nu³　nan²nau　ni　hpe②

さあ　今日　TM　お母さん　あなた兄弟　たち　に

lam　hkom　sha¹rin²　ya　ma¹de①　ga①”.

道　歩く　教える　あげる　よう(一人称単数)。

（さあ，今日はお母さんがお前たち兄弟に歩くことを教えてあげよう。）

３－３　仮定を表す

３番目に用例が多いのは，仮定を表す用法で，８例あり，約５%を占める。このケースも前述したように，戴庆厦(2001)において取り上げられているが，そこでは，従属文が主題になるケースとされている。複文における一部の従属文の役割は確かに主題の役割に似てはいるが，しかし，両者は構文論的にはまったく違うものであり，本稿では戴庆厦(2001)に従わず，日本語の関連現象に対する命名を生かして，「仮定を表す」とする。

また，戴庆厦(2001)では，この仮定を表す go¹の接続の仕方については，ただ従属節につくとされていて，詳しい記述はない。そして，その用例では，go¹は「jang」の後についている。これに対して，筆者が観察した伝説における８例では，７例が「yang」の後に，一例だけが「jang」の後についている。「jang」と「yang」の細かい使い分けについては，まだ十分に研究されていないが，同義語で，何れも仮定の意を表すということは確かである。となれば，日本語の「なら<u>ば</u>」や「たら<u>ば</u>」の「ば」と同じく，それ自体が仮定の意を表すというよりも，仮定を表す形の後について，それと一緒に仮定の意を表すと考えたほうがよいであろう。

さらに言うと，「ならば」「たらば」のような形ですでに述べてきたように，この場合の仮定を表す go¹は，日本語の主題マーカーの「は」ではなく，かつては「は」だったが，その後音声の変化を遂げて，新しい形として成立したとされている「ば」である。「は」と「ば」は，言語学史的知識を持たない人の目には異なる２つの形として映るが，その相互間における歴史的な発生関係は早くから学界で説かれている。その意味において，カチン語の主題マーカーの研究は，こういった日本語の主題マーカー研究に関する学説を裏付けるものであり，面白いである。以下例を２つ挙げておく。

(21)　sha¹da①　n²htoi²　yen　hkat²　<u>yang¹</u>　<u>go¹</u>　mai na　wa。
　　お互いに　日にち　ずらす　あう　なら　TM　よい　が
　　（お互いに日をずらすことができればよいが。）

(22)　Lama　bai²　sa　<u>yang¹</u>　<u>go¹</u>,　w<u>a</u>³　hpe②　mung¹
　　もし　また　来る　なら　TM　パパ　を　も
　　sa　tsi¹ sha¹mai² la²　sha¹ngun².
　　来る　直す　させる
　　（また来るならば，パパ(の病気)をも直してもらおう。）

３－４　原因を表す

用例は５つあり，全体の３%弱である。この用法に関しても，戴庆厦(2001)において取り上げられているが，上のケースと同じく，その接続の仕方についての記述は不十分だといわざるを得ない。そこでは，従属節の後につくとだけされているが，厳密には，動作や変化の完了を表す ai の後につかなければならないのである。

この場合の go¹に対応する日本語の形式も「は」ではなくて，上のケースと同じく，「は」が変化を遂げて新しく成立した「ば」という形である。そして，面白いことに，カチン語

の仮定を表す go¹ と原因を表す go¹ の接続の仕方が違うことと同じく，日本語の仮定を表す「ば」とこの原因を表す「ば」の接続の仕方も異なり，よく知られているように，前者は未完了の形に，後者は完了の形の後に付くのである。

それから，原因を表すカチン語の日本語の「ば」の間に，もう一点互いに大変似ていることがある。いずれも現代語ではすでに使われなくなっているということである。珍しい用法なので，以下収集した３例を全部あげることにする。

(23) “An² sha¹da① n²de³de¹ tso②ra① hku①hkau² hkat²ai go¹,
私たち 互いに こんなに 愛し 仲がいい あう ので
prat¹ ding¹nong n² di① n² hka① rai¹ hpu³ ma²jing³ nau ma²jing³ zon¹,
生涯 別れない 実の兄弟 のように
nam¹muk¹ da¹rako du¹ hkra¹ a¹rau¹ ding¹htong rai¹ lui yu② wa¹ ga①!”
海 に まで 一緒に 肩を並べて 流れ 行く よう
（私たちはお互いにこんなに愛し合い，仲がよいので，生涯別れない実の兄弟のように海にまで一緒に肩を並べて流れていこう。）

(24) “Nga la sha² sha¹ra¹ de① she① sa sai wa go¹,
牛 殺す 食べる ところへ こそ 行く た (ポーズ) ので
ga¹-ning¹ rai²tim³ n² sha²ai go¹ n² wa¹ na re ngu² n¹na²,
何が何でも ない 食べる TM ない 帰る だろう と思った から
na② a① numhkau n² htu sa²ga② ai lo!”
あなた の 分 ない わけてあげる （一人称複数） （不愉快）
（牛殺しのお家に行ったので，何が何でも食べないと帰らないだろうと思ったから，あなたの分を分けてあげなかったのだよ。）

(25) nang mi n kam hkan tim³, nang go¹ nga² rong ai sha¹ra
あなた たとえ ない たい 捕る ても あなた TM 魚 いる ところ
chye ai go¹ nga² rong sha¹ra¹ sha¹ pyi sa ma¹dun² dan² rit¹
知る ので 魚 いる ところ だけさえ 来る 教える 見せる ください。
（たとえ実際に捕まえなくても，あなたは魚のいるところを知っているから，せめてそれだけは教えてよ。）

３－５ 逆接を導く

go¹ のもう一つの用法は逆接を導くと言えよう。複文の従属節に用いられて，その従属節とは逆接的な関係をなす主節を導き出すという機能である。戴庆厦(2001)において，この種の用法にまったく触れていないが，おそらく注意を引くほど例がたいへん少なかったためであろう。筆者が調べた伝説にも２例しかなかったので，以下全部示しておく。ちなみに日本語の「は」にもこのような用法がある。

(26) Nat² ga¹lo¹ sha² sa lom² go¹ nga,
鬼 祭る 食事会 行く 参加する TM 言う(が)
shan¹ hkyep² mi mung¹ n² lu¹ ga¹wa² re ma¹jo¹,……。
肉 塊 一つ も ない できる 噛む （状態） だから，

（鬼を祭る食事会に行ったとは言え，肉の一切れも食べられなかったのだから，……）

(27) nang go¹ du¹sat¹ a¹myu² hta① ga¹ba¹ dik¹ ai wa go¹ rai² nga¹ n¹dai,
あなた TM 動物 類 うち 大きい 最も もの TM で ある 二人称単数
rai²tim³ nang ma¹nang hpe② n² ko³ n² lo di ai ma¹jo¹,……。
しかし あなた ともだち を 大事にしない から，
（あなたは動物の中で一番大きいものではあるが，しかし，そのあなたが友達を大事にしないから，……）

３－６　不満を表す

go¹の６番目の用法を，不満を表すとでも言っておこう。この go¹の構文的特徴は，go¹で文を終え，述部を省略するということ，そして，文の意味・機能として，相手の行為に対する話し手の不満を表すのである。

やはり，用例が少ないためか，戴庆厦(2001)において，この種の用法については触れられていない。筆者が収集したのも３例しかないので，以下全部挙げておく。日本語の「は」もこの種の用法を持つと言ってよいだろうが，ただ，少し違うのは，その場合は「は」だけではなくて，その前に事態や話の内容を括る引用の記号と見られる「と」が付き，「とは」という形で使われるのである。

(28) “A¹ga³! Mun pyi n²de³de¹ ga¹ba¹ ai shan¹ wa lu¹ gap¹ yang¹,
何だ 毛 まで こんなに 太い 猪 打ちとめられ て
numju n²te② sha¹ tok² ya ai go¹……”
毛の付いた肉 こんなに少ない だけ 分けてくれる TM
（何だ！毛までこんなに太いイノシシを撃ちとめられて，毛の付いた肉をこれっぽっちしか分けてくれなかったとは……。）

(29) (ga¹wa¹ go¹) “Hka¹! ga¹nang² e¹?” ngu² ga¹sha¹ hpe② san² u① ai.
父親 TM えっ？ どこ に と 子供 に 聞いた。
sha¹loi² ga¹sha¹ go¹ ga¹wa¹ hpe②: Ti②nang she① ma¹dun² ai
そのとき 子供 TM 父親 に 自分 ばかり 指していた
chya²khyi² mi, ma¹nang hpe② bai² n¹htang² san² ai go¹……”
鹿 なのに 他の人 に また 聞き返す TM
（(父親は)「えっ？どこに？」と子供に聞いた。すると，子供は父親に「ほかでもなく，ご自分が指していた鹿なのに，人に聞き返すとは……」

(30) “Nang ma²te②sha¹ lo ai wa mi, ngai ma²de³lo② ai
あなた それ だけ 小さいものだ のに 私 こんなに大きいものである
wa hpe② a²ming³ ja¹hkrat¹gui² ai go¹, ……”
に 命令 下す TM
（そんなに小さいあなたが，これだけ大きい私に命令を下すとは……）

３－７　慣用的なもの

go¹の７つ目の用法は，とりあえず慣用的なものと名づけておこう。副詞の後に付くという形式的な特徴は誰の目にもすぐに分かるが，しかし，その付く副詞が大変少ないらしく，

その上，どのような副詞に付くかということはまだ十分に分かっていないのである。さらに言うと，副詞の後に付いて何を表すのかということについても自信を持って言えない現状である。いずれ今後の課題とするが，収集した 4 つの用例を以下全部あげておく。

(31) shi da¹gup² hkrup¹ ai nga² go¹ ba¹ren¹ she① rai² nga¹ ai ma¹jo¹,
彼 捉え た 魚 TM 竜 こそ である から
je¹ gang je¹ go¹ shi hpe② ma¹htang she①
～ば～ほど 引く ～ば～ほど TM 彼 を それ だけ
lung¹grop¹ hku ga¹ta¹ de① gang bang wa¹ na tai nga¹ ai
石ごろ 穴 底 に ひっぱっていく ように なる
hta① n²-ga²,……。
だけでなく，
(彼が捕らえた魚は本当は竜だから,網を引き寄せれば引き寄せるほどそれだけ彼自身が石ごろの穴の底に引っ張られていくだけでなく，……)

(32) “Nang hpe tso②ra① ma¹tsan¹ dum² n¹na² la²hkong³ ma¹sum
あなた を 愛し 同情する から 二 三
lang¹ sha¹rang² kau² niai. Rai²tim³ nang go¹ ngai hpe② tso②ra①
回 我慢した (一人称単数) しかし あなた TM 私 を 愛し
ma¹sin¹ ma¹chyi② myit¹ n² ma¹dun² n¹dai hta① n²ga², je¹
思いやる 思う ない 示す (二人称単数) だけでなく，～ば～ほど
na② je¹ go¹ myit¹ ma¹ga² ran² na a¹mu² hkrai ga¹lo
時間が長い ～ば～ほど TM 心 違うほう 離れる こと ばかり する
n¹dai.
(二人称単数)
(あなたを愛し，同情するから，何回何回も我慢してきましたが，しかし，そのあなたは私を愛し，思いやるどころか，時間が経てば経つほど心が違う方向に離れていくばかりです。)

(33) Gai¹da² ga¹sha¹ go¹, tsun ga¹lo ai sha¹ra¹ ko② chyom² go¹ ga¹nu¹ hpe②
やもめの子 TM 魚を取る ところで かえって 母親 を
lu¹ koi¹ kau² nu② ai rai²tim³ jan du¹wa¹ ma¹gang ga¹nu¹ hpe②
できる 避ける (三人称単数) けれど 太陽 沈む れば~ほど 母親 を
koi¹ kau² na lam htum¹ ma¹gang rai¹ nu①ai.
避ける よう(が) ない れば~ほど する (三人称単数)
(やもめの子は魚を捕まえるところでは母親から逃げられたが,太陽が沈めば沈むほど母親から逃げることは難しくなった。)

(34) Ja¹hkrai ma¹ dam¹nga¹ a hting¹bu¹ hting¹pyen ni hte① makau grup¹yin
孤児の漁夫 の 隣近所 たち と 隣や周り
ga¹htong¹ hkan² na² ni yong¹ go¹, …… hpang e¹ yat¹yat¹ go¹,
村 あたり の 人たち みな TM あと で 少しずつ TM
ja¹hkrai ma¹ dam¹nga¹ nga² hkan ma¹joi sa lom¹ tim³, ma¹du① jan

孤児の漁夫　　魚　取る　勝手に　行く 参加　でも　奥さん
da¹ru¹ru　re ai　mung¹　chye kau²　ya,　bai²　sa　lom¹　tim³　sha²
怒る　様子　も　よく知る　やる また　行く 参加する たとえ　食べる
lom¹ ai mung¹　n²　rai² re ai　hta① n²-ga²,　ma¹nang　a①　ding¹hku
参加する　も　ない　様子　だけでなく，　友達　の　家庭
sha¹bya②　ya ai　tai　na　hpe②　tsang¹　n¹na²　ga¹dai　mung¹
破壊　やる　なる　ことになる　を　心配する ので　誰　も
nga²　hkan　n　sa　so①　ma¹nu① ai.
魚　取る　ない　行く　誘う　（三人称複数）

(孤児の漁夫の隣近所や周りの村の人々は，(略)その後少しずつ，孤児の漁夫が魚取りに勝手に参加したら奥さんに怒られることを知り，また，たとえ参加しても魚を食べようともしないので，いたずらにその家庭を破壊することになりかねないと悟ったので，だれも彼を魚取りに誘わなくなった。)

４　終わりに

本稿においては，研究が進んでいる日本語の主題マーカーである「は」の諸機能を参照して，伝説に見られるカチン語の go¹ の用法を以下の７種類に分けて記述した。

１　主題を表す
２　対比を表す
３　仮定を表す
４　原因を表す
５　逆接を導く
６　不満を表す
７　慣用的なもの

伝説に見られる go¹ の 7 種類の用法が現代カチン語としてどこまで生きているかを検討していくのが今後の課題とする。

参考文献:

戴庆厦，徐悉艰(1992)《景颇语语法》 中央民族大学出版社
戴庆厦(2001)（景颇语的话题)《语言研究》2001 年第 1 期
亀井孝他編(1988)『言語学大辞典　第 1 巻 言語編（上)』大修館
刘璐(1984)《景颇族语言简志》 民族出版社
野田尚史(1996)『新日本語文法選書Ⅰ「は」と「が」』くろしお出版
張麟声(2007)「中国人学者によるカチン(景頗)語の主題助詞の研究について――日本語の「は」との対照研究の立場から」